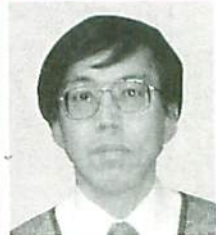


「肺気腫」について 教えてください

呼吸器科



久田哲哉
東京通信病院呼吸器部長
ひさだ・てつや
1955年生まれ。80年東
京大学医学部卒業。専
門は呼吸器内科全般

Q

娘は、2007年7月に「卵巣腫瘍」の手術を受けました。手術の2〜3日後に痰が出て苦しい思いをしたので、

退院後内科を受診したところ、「肺気腫」といわれる薬を服用しています。特に自覚症状もなく過ごしていますが、1歳になったばかりの子どものことや自分の将来について不安が募り、悩んでいるようです。この病気は治るのでしょうか。肺気腫について詳しく教えてください。
(娘) ● 40歳 ● 身長163cm ● 体重60kg ● 20歳代に数年間喫煙していた

A

「肺気腫」は、肺のいちばん末梢にあつて、直接酸素の取り込みと炭酸ガスの放出を行っている「肺胞」が破壊されていく病気です。肺胞の破壊が起こった場所では、「空気は入るけれども吐き出せない」、いわゆる気流制限が起こるため、肺気腫は、現在では「慢性気管支炎」とともに「慢性閉塞性肺疾患(COPD)」と呼ばれています。咳と息切れが

症状の中心となりますが、この場合の息切れは、閉塞性肺疾患の特徴として、「息が吐きづらい」といった症状を中心とした息切れになります。約90%は喫煙によるものとされており、一般的には高齢者の病気です。

診断には、上記症状に加えて、呼吸機能検査で、息が吐きにくいことを反映する「1秒率」や「1秒量」が低下していることと、胸部CTも含めた胸部エックス線検査で、肺胞が破壊されていることを確認することが重要です。

治療としては、禁煙が必須です。その上で病状に応じて、抗コリン剤を中心とした気管支拡張薬の吸入療法を行います。また、病状が進行すると、「酸素吸入療法」が必要となることもあります。

ご質問者の場合、年齢が比較的若く、喫煙期間も短期間であったようであり、肺気

腫としてはやや非典型的です。

肺気腫と鑑別が難しい疾患として、呼吸機能検査では、アレルギーによって起こる「気管支ぜんそく」、エックス線検査では、「肺リンパ脈管筋腫症」「肺ランゲルハンス細胞ヒストサイトーシス」「膠原病」による肺疾患の一部などがあります。

また、肺気腫の特殊型として、「α1アンチトリプシン欠損症」のような遺伝疾患もあります。診断時期が、婦人科手術から比較的短期間しかたっていない時期とのことです。まず呼吸器の専門医により診断を再確認することが重要だと考えます。

慢性閉塞性肺疾患では、呼吸機能検査の結果を中心に、重症度分類がされています。ご質問者の場合は、現在、気管支を広げる薬の服用で自覚症状が抑えられているようですから、それほど重症度は高くないと考えられます。破壊された肺胞は残念ながら元には戻りませんが、肺は予備能力の大きな臓器ですから、仮に肺気腫と確定診断がついても、禁煙の継続を中心に、定期的な通院加療を中心とした管理を続けていくことで進行を防ぐことができると考えます。